

ギリシャ概況(2019 年 5 月号)

1. 内政

- ・3 日 欧州議会選挙に出馬するクドウラ観光相が辞表を提出し、チプラス首相がこれを受理した。
- ・4 日 サナシス・セオハロプロス民主左派連合(DIMAR)党首が観光相に就任した。
- ・7 日 中道政党ポタミから離脱しNDに入党していたダネリス議員及びマルク議員辞職したことを受け、後任として、ポタミの候補者2名が繰り上げ当選した結果、ポタミは5議席を有することとなり、再度、国会で政党として認められることとなった。
- ・10 日 政府信任案が投票にかけられ、153票の賛成を得て承認された。
- ・26 日 欧州議会選挙、地方選挙実施。SYRIZAがNDに大差で敗北したことを受け、チプラス首相が解散総選挙実施を発表した。
- ・28 日 欧州議会選挙の結果を受け、セオドラキス・ポタミ党首が、党首辞任の意向及び次回総選挙でのポタミの不出馬を発表した。
- ・28 日 メガロイコノム議員がSYRIZAを離脱し、無所属となった。
- ・30 日 サリディス議員が中道連合を離脱し、無所属となったことに伴い、中道連合の議席は4となり、国会における政党としての資格を失った。
- ・31 日 閣議にて最高刑事裁判所の裁判長(ディミトラ・ココティニ)及び検察長(クセニ・ディミトリウ)が指名された。

2. 外政

- ・1 日 カトウルガロス外相がカタールを訪問し、ムハンマド副首相兼外相及びクワリー一商工相と会談した。
- ・9 日 チプラス首相がEU首脳会議(於:ルーマニア)に出席した。更に本会議のマージンにて、アナスタシアディス・キプロス大統領と会談した。
- ・12 日 カトウルガロス外相が北マケドニアを訪問し、ペンダロフスキ新大統領就任式に出席した。
- ・13~14 日 カトウルガロス外相がEU外相会合(於:ブリュッセル)に出席した。
- ・14~15 日 パヴロプロス大統領が訪中し、習近平国家主席及び李克強総理と会談した。
- ・16~17 日 カトウルガロス外相が欧州評議会の閣僚委員会(於:フィンランド)に出席した。更に本会合のマージンにてチャヴシュオール・トルコ外相と会談した。
- ・28~日 チプラス首相が、欧州委員長選出協議を目的とするEU首脳会合(於:ブリュッセル)に出席した。
- ・29~30 日 カトウルガロス外相がシンガポールを訪問し、外相、貿易・産業大臣と会談するとともに、在シンガポール大使館開館式に出席した。

3. 移民・難民問題

4 月には陸路でギリシャに到着する移民・難民の数が 1,150 名、島嶼部に到着する者の数が 1,850 名となった。

4 月 30 日現在 ギリシャに滞在する移民・難民は 77,150 名(UNHCR 発表)。うち 14,650 名が島嶼部に滞在。島から本土への移送も継続しており、4 月には 716 名の難

民が本土の施設に移動した。

4. 経済

(1) 経済動向

- ・2 日 欧州安定メカニズムが、欧州中央銀行やユーロ圏各国の中央銀行が保有するギリシャ国債による償還金を含む9億7,340万ユーロのギリシャへの支払いを実施した。
- ・3 日 格付け会社DBRS社がギリシャの国債格付け評価をBB(low)から B(high)に引き上げ、見通しを「安定的」とした。
- ・6～8 日 債権団代表がポストモニタリング第3次審査のためにアテネを訪問した。
- ・15 日 10億ユーロにのぼる減税策及び年金補助に係る法案が可決された。
- ・20 日 飲食店の一部(除くアルコール類等)、食品の一部(油、肉、魚、パスタ、塩、酢、砂糖、シリアル、ソース、コーヒー等)の消費税率が24%から13%へ引き下げ、電気、天然ガスなどの消費税率も13%から6%に引き下がった。
- ・20 日 最高行政裁判所本会議は、公務員のボーナスや手当が2012年以降カットされた件に関し、違憲ではないとの判断を下し、遡及的支払いの求めを退けた。
- ・22 日 EU とギリシャ統計局のデータによると、2018年のギリシャの経済成長率は1.9%となり、ギリシャ政府予測2.1%、EU予測2%を下回った。
- ・26 日 ピレウス港第1四半期のコンテナ取扱量は前年同期に比べさらに19.7%増加し、4月はさらに23.2%上昇した。
- ・27 日 株式市場と国債市場は、選挙結果を受けて、総選挙までの期間が短くなり政治的不確実性が除かれたと見なし、好意的反応を示した。アテネ株式市場は、総合指数を1日で6%以上上げ、4年間で最高の値動きとなった。国債の10年物利回りは3.147%、5年物利回りは1.957%で、先週から約6%下げた。
- ・28 日 格付け会社フィッチは、ギリシャ主要銀行の評価を発表した。ユーロバンクに関し、不良債権の処理が加速していることを評価し、格付けをCCCからCCC+に引き上げたものの、アルファ、ピレウス、ナショナルに関しては、評価を据え置きとし、それぞれCCC+、CCC、CCC+とした。

(2) 財政

ギリシャ財務省が5月27日付で公表した2019年1月から4月の財政統計によると、1月から4月の財政収支は10億4,100万ユーロの赤字、同期間のプライマリーバランスは14億6,300万ユーロの黒字となった。同期間の歳入は159億5,600万ユーロで政府目標を13億700万ユーロ(8.9%増)上回り、歳出は169億9,700万ユーロと政府目標より7億6,900万ユーロ低く抑えられた。

(3) 輸出入

ギリシャ統計局の5月10日付の発表によると、3月の輸入総額は48億8,110万ユーロ(前年同月比7.8%増)、輸出総額は27億9,700万ユーロ(前年同月比3.6%減)となった。

(4) 観光業

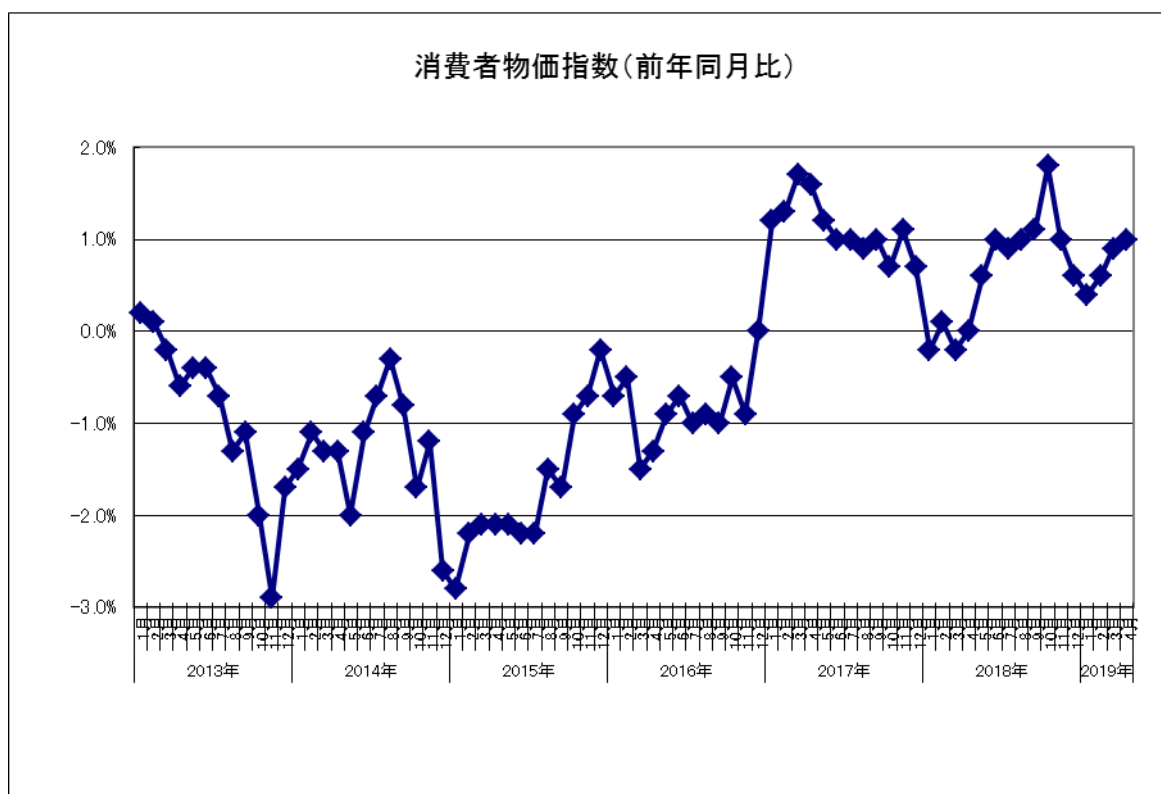
ギリシャ観光業協会(SETTE)の発表によると、1月、2月、3月の観光客は、それぞれ37万6,113人、35万8,381人、49万5,734人で、前年同月比はそれぞれ10.4%増、17.8%増、0.2%減となった(国内主要空港の観光客到着数(暫定値)ベース)。内訳は、アテネ空港がそれぞれ27万1,630人(同8.6%増)、25万1,571人(同17.0%増)、35万6,299人(同17.1%増)で、テサロニキ空港が10万85人(同38.5%増)、9万8,359人(同45.0%増)、12万3,494人(同6.5%増)となった。

5. 経済指標

(1) 消費者物価指数

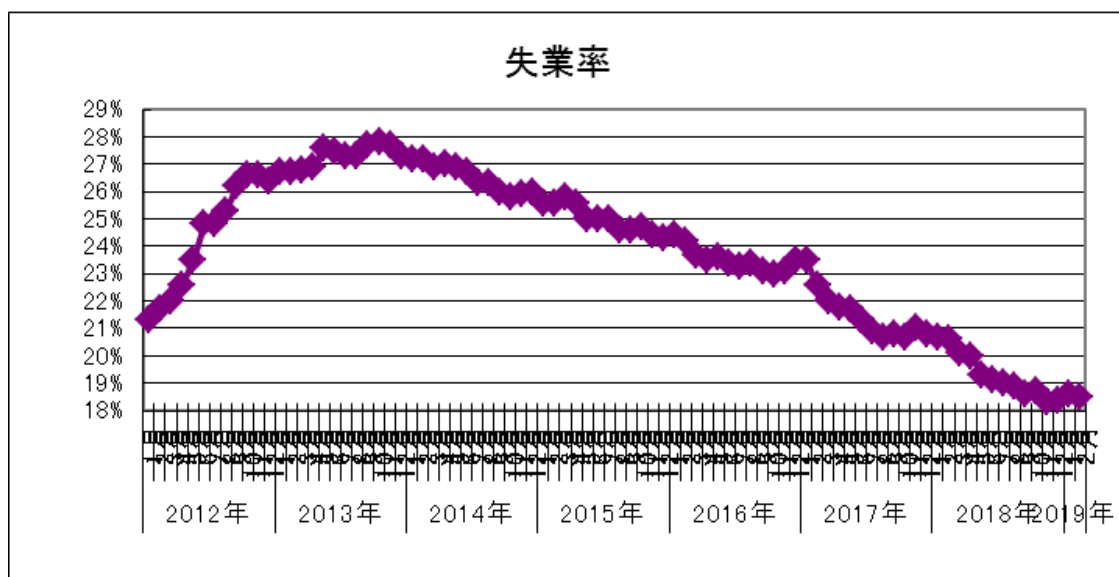
ギリシャ統計局の5月10日付の発表によると、4月の消費者物価指数は前年同月比1.0%増となった。

(出典:ギリシャ統計局)



(2) 失業率

ギリシャ統計局の5月9日付の発表によると、2月の失業率は18.5%となり、前月から0.1%減少した。



(出典:ギリシャ統計局)

※1月の失業率はギリシャ概況4月号発表後、18.5%から18.6%に修正された。

(3) GDP

OECDのデータによると、2019年第1四半期(1月～3月)の実質GDP成長率は前年同期比プラス1.3%となった。



(出典:OECD)

※この概況は各種報道・公表資料を基に作成した。

(了)